



インターネットへの入り口と利用方法 インターネットで見えるスポーツ科学・トレーニング情報

著者	村木 征人
雑誌名	Training journal (月刊トレーニング・ジャーナル)
巻	18
号	10
ページ	60-61
発行年	1996-10
URL	http://hdl.handle.net/2241/102806

インターネットへの 入り口と利用方法

村木征人（筑波大学体育科学系助教授）、伊藤浩志（同大学院体育研究科）

世はまさにインターネットの大ブーム。その中には、あなたのチームの競技力向上、またはあなた自身の研究活動に有益な情報もきっとあるはずだ。この連載は、スポーツ科学・トレーニング分野を中心に、スポーツ関連の情報ソース紹介を主旨として企画された。初回はインターネットの一般的入門編。

インターネットとは

最近インターネットが大変話題になっています。一種のトレンドという感もあります。しかし「インターネットって何？」という人のために、簡単に説明します。

電話を思い浮かべてみて下さい。電話線は基本的に日本全国につながっています。また、日本から世界中のどの国へでも電話はかけられます。インターネットは電話器をコンピュータに置き換えたものと考えると一番わかりやすいと思います。つまり、世界中のコンピュータをつなげて、どのコンピュータ同士でも通信を可能にしたということです。ですから、インターネットでつながったコンピュータ1つ1つには、電話番号のように世界中でただ1つの住所番号（IPアドレス）がついています。

インターネットで何ができるか

インターネットは世界中のコンピュータがつながったものですから、それ自体が何かをするというものではありません。しかし、その巨大なネットワークを使ってできることには無限の可能性があります。

電話の例を出しましたが、電話と同じようにインターネットで友達にメッセージを送ったり、ピザの宅配を注文したりすることも可能です。

インターネットはコンピュータを介して使うものですから、そこで扱うものは「情報」です。メッセージや注文という情報がコンピュータからコンピュータへインターネットを経由して運ばれ、その情報から様々なサービスが生まれるということになります。

また、インターネットではそういった情報の受け渡し手段として様々なものが存在しています。インターネットと聞くとホームページという言葉が思い浮かべる人も多いと思いますが、ホームページというのは、電話のサービス・インフォメーションのように情報を提供する方法の1つです。それもインターネット上で行ういくつかの受け渡し手段のうちの1つである「WWW」という方法を使っています。

どうして「ホームページ(WWW)」が多く利用されるかというと、受け取る側ではゲーム感覚で簡単に情報を手に入れられること、渡す側では表現として文字はもちろんカラフルな絵や写真、さらには動画などが手軽に利用できることなど「多くの人が使える」という条件が揃っているからです。

インターネットでのエチケット

インターネット上でのマナー、エ

チケットのことを「ネチケット」といいます。インターネットだからといって特別なものがあるわけではなく、「他人に迷惑をかけない」というのがやはり基本です。

インターネットに公開されているものは情報ですから、それを二次的に利用する際には、著作権の侵害などに気をつけなければなりません。

また、情報を公開する場合にも、個人的な誹謗や中傷がないのはもちろんですが、内容の適切さを考慮する必要があります。具体的な例としては電子メールで相手のアカウント

（住所）を間違わないようにする、ネットワークへの負荷を減らすために大きなファイルは圧縮して転送する、などがあります。もちろん、悪質なハッカー（コンピュータへの侵入者）や不正コピーソフトの転送などが禁止なのは言うまでもありません。また、情報を受け取るだけでなく、積極的に情報を発信することもインターネット上では参加マナーとして求められます。多くの人が参加することでインターネットに流れる情報は発展し、より有意義なものとなっていくわけです。

インターネットの使い方

前置きが長くなりましたが、インターネットの使い方を説明していきたいと思います。インターネットを利用するためには、インターネットに接続されたコンピュータが必要となります。その接続方法には大きく分けて、専用回線による接続、電話回線による接続の2種類ありますが、家庭から電話回線を利用してインターネットに接続する場合のほうが多いと思いますので、そちらを中心に説明していきます。

家庭からインターネットを利用す

るためには「プロバイダ」という仲介者の力を借りる必要があります。というのは、インターネットは、あくまでコンピュータ同士が専用の回線でつながったものですから、普通に家庭から使える電話回線をインターネットにつなぎ変えてもらう必要があるからです。詳しい接続の方法はここでは触れませんが、必要な道具としては、コンピュータ、モデム、通信ソフトがあります（最近では、コンピュータ本体と必要な道具がパッケージで売られるものが多くなってきました）。またプロバイダでは、利用料金がかかりますので、支払いのためにクレジットカードが必要です（電話回線の使用料金は別途必要になります）。

プロバイダについてもう少し触れておきます。プロバイダはインターネットへの接続の仲介をしてくれるものですが、会社ごとで少しずつ、初期費用、利用料金、サービス等が異なります。また、接続する場所（アクセスポイント）も自分の家の近くにあったり、なかったりと様々です（当然、接続場所が家から近いほうが電話料金が安くすみます）。どのプロバイダを選ぶかは、十分に検討したほうがよいと思います。

インターネットの世界

それでは、実際にインターネットの世界を覗いてみましょう。ここでは、一番ポピュラーなWWWによるホームページを中心に紹介していきます。

WWWでホームページを見るには、「ブラウザ」と呼ばれるソフトウェア（代表的なものにNetscape NavigatorやMosaicなどがあります）を準備します。これは、インターネット上に流れる情報を電波

表1 代表的なWWW検索サーバ

名 称	URLアドレス(http://)	備 考
NTTホームページ	www.ntt.jp	日本全体のベース的なページで、国内のほとんどの情報はここに集まる。
Yahoo/ Japan	www.yahoo.co.jp	NTTのページ同様、日本中のページを網羅してWebサイトの検索に便利。
Yahoo/	www.yahoo.com	Yahoo/ Japanの本家で世界中のWebsiteを網羅。あらゆるWebサイトの検索の出発点。

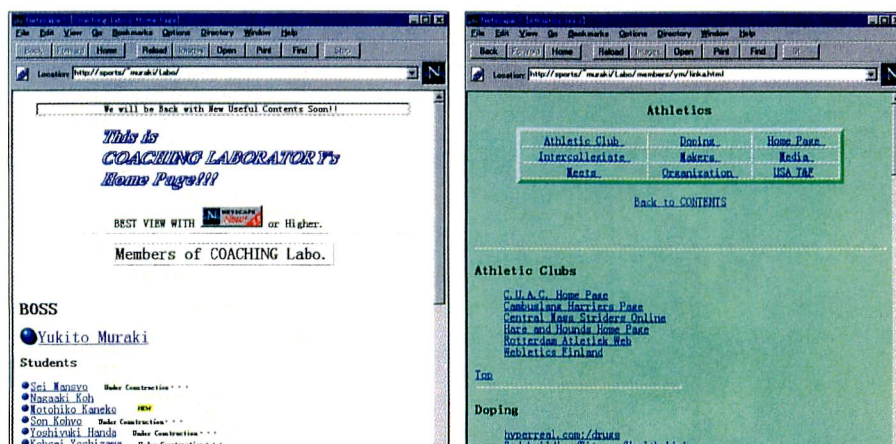


図1 (左)筑波大学コーチング論研究室のホームページ画面。図2 (右)リンクの例。

だとするとそれを受信するテレビのような役割をします。電話でサービス・インフォメーションを聞くには電話番号を調べて電話をかける必要がありますが、ホームページの場合も同様に、情報を発信しているコンピュータの住所を調べて、そこに請求を出します。その住所のことをインターネットでは、「URL」といいます。ブラウザソフトを使ってURLを指定してやれば、情報が送られてきます。筑波大学コーチング論研究室のURLは、「http://taiiku.tsukuba.ac.jp/~muraki/Labo」ですので、それをブラウザソフトに入力すると図1のような画面が現れます。

最初から見たいと思うホームページのURLがわかっていればいいですが、たいていの場合わからないのが普通です。電話であれば番号がわからないときに電話帳を引きますが、

インターネットにも電話帳のように多くのURLを集めた検索用のホームページがあります。代表的なものを表1に紹介しました。

個人のページにも「リンク」と呼ばれる他のホームページを紹介しているもの（図2）があり、順番に目的のホームページを辿っていくことができます。また、「ネットサーフィン」というのは、こうした「リンク」を使ってホームページからホームページへと「情報の波」に乗っていくことです。最近は人気の高さもあって非常に多くのホームページが登場しています。皆さんも興味の向くままに「情報の波」に乗ってみて下さい。今後はスポーツ・体育の世界におけるインターネットの活用方法をホームページによる情報収集に限らず、インターネットサービス全般について可能性を探ってみたいと思います。